

ネパリ・バザー 口 たより

第 20 号

ベルダレルネーヨ通信

1999 N6 E.

ネパリ・バザーロは、ネパールを中心としたアジア諸国のハンドクラフト製品や食品の企画、開発を行い、継続的に輸入を続けることによって就業の場の拡大をめざすフェアトレード団体です。立場の弱い人々、女性、子どもの自立を支援し、貧困の課題改善に取組めたらというのが私たちの願いです。母体となるボランティア・グループ(NGO)であるベルダレルネーヨ(ネパールの女性の自立と子どもの育成支援の会)のトレード部門として1992年から活動しています。1998年2月からは、地球市民かながわプラザに直営店「ベルダ」をオープンして第三世界からの品々をご紹介しています。

<特集>
女性と仕事リーズ
その3

「女性一人一人の
幸せを願って」



マガールの少女・・・ラジュ・ムニ・バジュラチャーリヤさん画

目

<特集> 女性と仕事シリーズその3

「女性一人一人の幸せを願って」

—友としてのシャンティさん —

土屋春代 ・・・ 2

—フェアトレードは生産者に何をもたらすか—

シャンティ チャダ ・・・ 5

—シャンティ・チャダさんの公開講座に参加して—

ぐりん・ぴいす 清水千佳 ・・・ 8

次

「ネパール料理教室潜入報告」

廣田麻紀子 ・・・ 9

「フェアトレード・ショップを訪ねて」・10/11

ミラノ(イタリア)協同組合 チコ・メンデス

「ビシュヌさんの日本訪問」

魚谷早苗 ・・・ 10

「新人紹介」 矢島万知子 ・・・ 11

「お知らせ・編集後記」 ・・・

特集 女性と仕事 シリーズその3

- ・ 出会いから講演会に至るまで
 - ・ 友としてのシャンティさん
 - ・ 土屋春代

今回カタログ発表、新製品展示販売会とい
う新しい試みにゲストとしてシャンティさん
をお招きました。フェアトレードを推進する小
売店の方や個人、今後フェアトレードに関わ
りたいという方達に、ネパールの生産者側か
ら見てフェアトレードはどう役にたっている
のか等具体的に話して頂こうと企画した。そ
の時直ぐに思い浮かべたのはシャンティさん
だった。長い実践経験があり豊富な知識、鋭
い着眼点など彼女以外にいないと。

そして忙しいシャンティさんのスケジュールを押さえるため昨年の夏に依頼して準備を進めてきた。

彼女は快く来日を承諾し日本のマーケットを知る良い機会と楽しみにしてくれた。

「出会い」

1992年にネパリ・バザーロを設立し、仕事を始めたばかりの頃にシャンティさんと出会った。前年からネパールの女性の自立、子ども達の教育支援という形でネパールと関わるようになったが子ども達をとりまく様々な問題も、女性達が抱える問題も背景の貧困問



〈シャンティ・チャダさん
(左)と娘のロティカさん〉

1950年ネパール生まれ
イギリス、アメリカ、印
度、フィリピンなど
各国でマーケティング
を学び、自国ネパール
で「自らの足で立たな
ければいけない」の信
念に基づき精力的に
フェアトレードを推進
している。ネパール
ウーマンクラフトを立
ち上げ、販路を広げ、生
べく活動している。

題を改善しなければ根本的な解決には繋がらないことに気付き、仕事づくりの応援を中心活動しようと輸入を始めた頃。商品を探して歩き回っていた時見つけたブロックプリントの素敵なクッションカバーを作っている団体・W S D C^{注1)}の代表だった。日本での評判も良く継続して注文も出来、何処で、どんな人達が作っているのか実際見たくて、訪ねた。

シャンティさんは歓迎して、作業場を案内して下さった。夫に離縁されたり、死別したり、体にハンディを持っていたりという女性

口クタひとくちメモ

<ネパ - ル手漉き紙の原料「ロクタ」>
ロクタは、ネパ - ルの 2000 から 2700m の高地の森に
育つ目桂樹科の小灌木である。

口タは、ネバ - ル古来からの紙の原料としてよく知られ、その紙は、強さ、素朴な質感、耐久性、虫の付き難さなどから高い評価を受けている。筆で書く紙としては一等級で、この紙を作るのは世界の中でもネパールだけといわれている。

＜口クタの収穫＞

ネパールで一番大きな祭りダサインの時期の10月、ネパールの高地の村人たちは、ロクタの収穫にでかける。彼らはロクタを刈り取る者と、その皮を剥ぐ者に分かれて作業をする。以前、人々はロクタを根こそぎ取っていたが、今は森林レンジャーの指導を受けて、



<口クタの樹皮が集められ、計量して売られる>

特集 女性一人一人の幸せを願って



<漉いた紙を外で乾かしている>

達が70人ぐらい働いていた。生活手段を持たぬ彼女達を雇用し、技術を教え、製品を作り、暮せる様にとシャンティさんは熱っぽく説明してくれた。

高い教育を受けた男性でも仕事に就ける人の少ない国で、教育を受ける機会も男性より圧倒的に少ない女性達。女は結婚して夫に従うものと教えられ若くして結婚し、子どもを産み育て家庭を守っている女性達。ところが夫は簡単に妻子を捨て、他の女性と別の家庭を作ってしまう例がとても多い。抗議もできず、実家にも邪魔者で帰る場所がない。

高位の軍人の妻として豊かな生活をしていたシャンティさんも夫を亡くした後財産相続権のない女性という立場のつらさを味わった。親戚からも冷たくあしらわれ経済的な困難に陥った。高い教育を受けた彼女ですら遭遇した経験をバネにより多くの、よりつらく

弱い立場の女性達を思いやる。

W S D C に来られた彼女等はまだ恵まれている。他の女性達はどうやって子どもを育てればいいのか、どうやって生きていけばいいのか。

「ネパールの女性は大変だな~、やれやれ日本に生まれて良かった」と内心思っていた私を見透かしたかのようにシャンティさんはこう言った。「日本とネパールは文化、生活スタイル等似たところが多い、色々輸入出来るでしょう、たくさん買ってください。それにバングラでも女性が首相になるのに、日本でも、ネパールでもなれないのは何故かしら。お互いに頑張らなきゃね」と、日本の女性もまだまだだよ、と発破を掛けられドキッとした。

[再会]

その後「援助より貿易を」と唱えるシャンティさんは援助に頼る政府に疎まれ代表の座を追われた。挫けず、自分のプロジェクトを起こそうとするシャンティさんに、「何かできることはありますか、ミシンでも送りましょうか」と言うと「私達は乞食ではありません、お金や物を惠んでくれなくていい、貿易してほしいの。自分達の足で立たなくてはこの国はだめになる。もうあなたは協力してくれているじゃない、買う事が一番の協力よ。そして日本のマーケットでどんなものが売れ

ロクタひとくちメモ

ある高さで刈り取り数年後また良い枝を刈り取ることができる事を教わった。村人は時々タバコと飲み物で休息し、午後遅くなつてロクタの皮を大きな束にする。学校から帰った子どもたちもロクタを家まで運ぶのを手伝う。

数日後、彼らは皮を剥ぎ乾かしたロクタを下の谷の大きな村に運ぶ。そこでは、荷が集められ計量されて、下の谷の紙漉き業者や目的のプロジェクトに引き取られる。

<製紙>

ロクタは、暖かく日当たりの良い製紙職人の村に運ばれる。川沿いにあるブラーマンとチェトリ

の村では、女性たちは薪をくべ、大きな銅の煮鍋をセットする。樹皮を苛性ソーダ（全行程のうちで唯一の近代的材料）で煮て、繊維を柔らかくし、余計な有機物を取り除く。苛性ソーダは、以前の灰の代わ



<紙漉き作業をする女性達>

特集 女性と仕事 シリーズその3

るのかアドバイスして下さい」と言われ、何をすべきなのか何をしてはいけないのか自分の仕事がはっきり分った。

しかしその新しいプロジェクトは今までのシャンティさんの仕事と違い手漉き紙の仕事だった。紙製品は既に他団体から入れていて、紙の販売には比較的弱いネパリ・バザーロは積極的に買えず遠ざかっていた。彼女の噂を聞くと会いたくてたまらなかつたが目前の仕事に追われ会えないまま時が過ぎた。

2年前サナ・ハスタカラ^{注2)}のすぐ横に木や石など自然素材でディスプレイし、壁紙まで手漉きの紙を使ったおしゃれなお店ができた。サナのマネージャー、チャンドラさんに聞くと、シャンティさんのお嬢さんの店だという。

外に出ると偶然外柵の工事に立ち会っている彼女が見えた。後姿だったが直ぐに分った。

シャンティさんも背中に視線を感じたのかゆっくり振り向いて私を見つけた。

お互いに駆け寄り抱き合った私達は言葉よりも先に涙が出てしまった。

[喜び]

シャンティさんはずっとネパリ・バザーロの仕事を見てきた。たくさんの団体に資本家として、あるいは理事として関わる彼女はネパール全体のことを常に考える。直接彼女との仕事をしていなくても、ネパールの小規模

生産者や女性達と仕事を続けるネパリ・バザーロを高く評価してくれていた。「何でも困ったことがあつたら言ってね、私で役に立つことがあつたらうれしいから。私も娘もいつもあなたと共にいますよ」と暖かく支えてくれる。

二人の娘を持ち、老いて子どもに返った親と暮すなど共通点も多く、家庭のこと子育てのこと、女性が仕事を持つ事など話は尽きない。「どこの国でも女性の状況は似ているのよ、だから理解し合い協力し合えるはずよ」と言う。

仕事を離れても良き友人であるシャンティさんを迎えて、日本のフェアトレードを支えて下さる方達と共に学び合えたのは本当にうれしく、大きな喜びだった。

注1) WSDC: Women Skill Development Center

注2) サナハスタカラ :

カトマンズにある小さな生産者を支援しているNGOの店



<ネパール・ウーマン・クラフトでレターセット作りに励む女性達>

ロクタひとくちメモ

りに使われ、労せずよりきれいな紙が作れるようになった。

時間をかけて煮て樹皮が柔らかくなると、女性たちはナイフで器用にこすって、樹皮の汚れやしみを取り除き、樹皮の内側だけが使われる。樹皮を再び茹でて、纖維を柔らかくし、石盤の上で木槌で叩いて細かいパルプにする。

パルプを何度も洗い、最後に一定量を水に浮かばせた枠に薄く広げ紙漉き作業になる。日に干して数時間後、ロクタの紙は枠からはがされる。

紙を束にして、バグルンバザールの収集倉庫に運び、品質で分類する。製紙職人は製品の質と重量で支払いを受ける。紙は再び梱包され、最終目的地、カトマンズ盆地に運ばれる。

ネパール国内で長期間使われてきたロクタペ・パ・は、今ロックプリントを施されたカレンダ - やラッピングペ - パ - としてカトマンズのギフトショップで売られ、またカラフルなグリ - ティングカ - ドはユニセフや、ネパール・ウーマン・クラフト(NWC)のようなプロジェクトを通じて世界中に送られている。



<ロクタの花>

注)メモ資料、写真:SHANGRI-LA April-June, 1992

● フェアトレードは生産者に
何をもたらすか
~日本を訪ねて~

シャンティ・チャダ

このたび、シャンティさんを日本にお招きしたのには2つの大きな理由がありました。

その一つは「現在日本各地でフェアトレードのお店として頑張っている方々やこれから考えようとしている方にネパールの生産者の実情を説得力のある生の声で聞いていただくこと」で、もう一つは「現地の生産者のリーダーに日本の実情(流通・品質管理・嗜好傾向など)を知ってもらい、それをネパールでの生産活動に活かしてもらいたい」からでした。そして、帰国したシャンティさんから日本滞在時の講座のまとめと感想が送られてきましたので、ご紹介します。

公開講座(2月19、20日)

横浜で行なわれた公開講座の目的は、フェアトレード活動について沢山話し合いをする事でした。両日とも日本各地から約35名ほどの参加者があり、それはおもにネパリ・バザーロの卸先の経営者だったり、フェアトレードを通しての貿易・ビジネスを始めたいと思っている人だったり、フェアトレード活動に個人的に関心を持つ人達でした。



<公開講座 2月19日>

講座では、私はネパール女性の社会的状況やフェアトレードの利点を詳細に紹介しました。ネパールの女性は、学歴のある女性を除き90%は農業に従事しています。結婚し、子どもを産み、畑を耕しながら、子どもを育てます。給料のない召使のような生活です。

学歴のない女性達も、自分の子どもは学校に行かせたい、よい食事を与えたい、よい衣服を与える、生活を改善したい、と願っています。その女性たちは、技術向上のトレーニングを受けて様々な手工芸品を作り始めましたが、売り先がなく収入につながらないという問題に行き当りました。

私は高等教育を受けていますが、それでも夫の死後、経済的に非常に厳しい状況に立たされました。教育のない女性がどれほど厳しい立場にいるか、身にしみて感じた私は、こうした女性たちのためにネパール・ウーマン・クラフトの事業を始めたのです。

フェアトレードは、弱い立場にいる女性にとって、太陽の光です。フェアトレードは、ビジネスをするということだけでなく、生産者が自分たちの文化の価値を認識し、思いを込めた製品を作ることにつながります。

先進国の女性が生産者の女性を理解すること、女性が異なる文化の女性の苦境を理解することはとても大切で、国境を越えて女性たちが共感しあい、手を差し伸べ合えるようになりたいと願っているのです。



< NWC での紙製品の出荷準備 >

特集 女性と仕事 シリーズその3

今回、参加者一人一人の自己紹介をして頂き、フェアトレードが店の経営者達に新たな視点をもたらし、考え方を変えたことが分かりました。そして、そうした話が私自身の認識を新たにしました。

参加者とともに、私達はフェアトレード活動について具体的に話し合いをしました。

たくさんのNGOや国際NGOが村にまで入って、技術向上のトレーニングをしてきましたが、作った製品が売れなければ女性たちの経済状況はなにも改善されません。

原材料となる資源があり、製品化する技術があっても、売り先を見つけられない生産者のために、マーケティングを支援するフェアトレードグループの働きで、製品が海外に売られ、はじめて生産者の収入となるのです。

ネパリ・バザーロは、日本の品質に合わせるために、スタッフが自らネパールに来て、地方の村にまでも行って、生産者と直接デザインやアイデアについて話し、試行錯誤しながら商品を作っていました。

日本の質に合わせ、かつネパールができるものを考えてきました。公開講座の参加者の方々も、フェアトレード商品を売ることで支援をしてくれています。

必要なデザインなどのアイデアを教えてくれることで、日本での市場が大きくなります。日本の皆様が買ってくれることで、私達は市場を得、生産者の子どもは学校へ行き、生活

が向上したのです。

私はまた、商品開発、販売についての意見も提示しました。質が一定で、適切な時期に適切な価格で引き渡される事は買い手にとって非常に重要ですが、同様に草の根の生産者達にとっても利益になります。 買い手と売り手双方が、互いを社会的、文化的、感情的に理解するというフェアトレードの目的を理解することが重要です。

その他の訪問先

公開講座の後、様々な場所を訪問しました。

卸先では色々な国の製品を、そのオリジナリティを損なわずにディスプレイしていることに大変興味を持ちました。商品チェックや顧客への対応も参考になりました。

埼玉県で手すきの紙を作っている工房にも行きました。

私が強く注目したことは、日本とネパールの手工芸品生産者の姿勢の違いです。日本の生産者は、他に煩わされず製品作りに打ち込むことができます（差別化の為に質の向上を目指す必要性と、伝統工芸の技術伝承の面があることも感じましたが）、けれどもネパールでは賃金が安いためなのか、生産者はいつも収入の確保に気をとられ、自分たちの創造力を探求することを忘がちです。悲しいことですが事実です（できれば、質の良いものを作れば、より多く売れ、収入も増えることを理解して欲しいのですが）。

まとめ

現地の生産者には、自分の製品が、輸出国でどのように販売されているかほとんど理解できていません。私が日本で感じたことは、企画、開発や輸送コストだけでなく、ネパリ・バザーロが客に提供するサービスは、私が予想していなかった手間や労力をかけているということです。それによって、卸先の人や消費者に各商品や生産者の情報が行き渡り、よりよい顧客サービスにもなっているということです。



<公開講座 2月20日>

す。生産者達は買い手の役割について知ることが重要ですし、買い手も、ネパールの手工芸品が教育や職業訓練の機会の少ない厳しい環境に暮らす生産者によって作られて



<ネパール・ウーマン・クラフトに集まった村の女性達>

いるという事実を理解することがまずは重要だということなのです。

帰国後

ネパール政府の家内工業部門のはからいで、ネパール各地の村の女性達が海外のマーケット情報を得るためにNWCを訪問しました。村に帰った彼女達は、他の人達にも私の伝えた情報を広めてくれています。私が日本へ伺って皆さんにお会いし、交流したことから得た情報は、このようにしてネパール各地へと広がって行きます。

一人一人のこのような輪が、一人一人の人々の幸せを築いて行くことを願って。

「この模様が放映されたテレビ東京系番組 フェアトレード 知ってますか?を見たい方、ダビングします。実費500円+送料!」

ネパールウーマンクラフトから届いた 素敵な品々をご紹介します。



カラフルなパッケージがかわいい
レターセット ¥1,200



丸い葉っぱを漉きこんであります。
大人のイメージのレターセット ¥800



紙のイメージが強いシャンティさんの
ウーマンクラフトから新しいシリーズ
のお香が届いています。「清漣」「追憶」
「誘惑」の3種。気分に合わせてどう
ぞ。 ¥450

手漉きの紙で作ったギフト用の
箱いろいろ。シャンティさんの
センスが光ります。 ¥300 ~



ここでご紹介したものはすべて通信販売しております。
ネパリ・バザー口までお問い合わせください。

●シャンティ・チャダさんの
● 公開講座に参加して
● ぐりん・ぴいす 清水千佳
「20日の公開講座に参加してくださった
「ぐりん・ぴいす(仙台市)」の清水さんが
レポートを送ってくださいました。」

欲しいのは市場
「私たちが欲しいのは援助ではなく(作った製品を売る)市場です」女性の置かれている立場はとても弱く、女性はほぼ100%家族全員が食事をしてから自分のご飯を食べます。急な来客があればそのとておいた食事を出し、食事をとれないこともあります」ネパールの各地で様々な手工芸品が作られていますが、どんな品物が求められているのか、どこに買い手がいるのか、小規模な生産者にとっては製品を市場に乗せていくのは大変なことです」「ロクタ・ペーパーは、値段がとても高く、自分達には買えません。だから海外に市場を求めるしかないので」などなど貴重な情報を伺うことができ、ネパールの状況がだいぶわかりました。

まだまだ学校でも女の子より男の子が優遇されるなど女性の置かれている立場は厳しいようです。でもフェアトレードのプロジェクトで働くことによって収入を得、自立への道

を開いた方もあるそうです。私は自国内での需要や消費はどんな感じなのかしら?と思って質問をしたのですが、返ってきたのは上記のような答えで、せっかく自分達が苦労して作ってもそれを使うことは出来ないのか...とちょっぴり悲しく思いました。紙だけでなく手づくりの手工芸品はどれも高価なようで、それを私たちがフェアトレードとはいえ、ふだん買えるような安い値段で買って使うことの贅沢さを感じました。

小売店は「お客様」

途中コーヒーブレイクをはさんで約3時間の集まりでしたが、疲れを感じない会でした。

ネパリ・バザーロは、自社製品を販売してくれている小売店を大事にしてくれています。

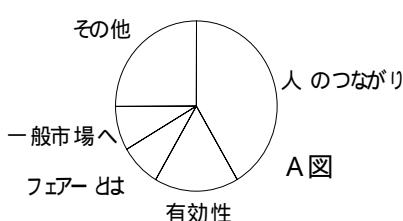
今回も、仕入れがしやすいような工夫、商品が作られる背景や生産者の状況のPOPを作つて配布するなど、エンドユーザー(消費者)へ売りやすい仕組みをいつも考えていることがわかります。

メーカーにとって小売店は顧客になるはずなのですが、たいていのメーカーはその辺のところを忘れているようです。

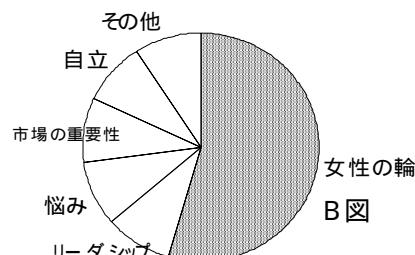
ぐりん・ぴいすはフェアトレード商品をたくさん置くわけにはいかないけれど、何かイベントを組んでみよう…と思いながら帰途につきました。

講座参加者からの声(アンケートから)

皆さんからのアンケートをまとめてみました。A図は「フェアトレードについて感じたこと」をお聞きした結果ですが、人のつながりを重視する方が多いことが分かります。



B図は「シャンティさんの講演を聞かれてから感じたこと」を書いていただきました。これらも女性達の連帯・相互理解が重要と考えている方が多いことが分かります。



● ネパール料理教室潜入報告 廣田麻紀子 ●

当日お天気が悪かったらどうしよう…、参加者の方は来ていただけるんだろうか…
毎度イベントの時は心配になりますが、お天気も良く、すっかり定着したお料理教室も毎回キャンセル待ちの方が大勢であるくらいの人気シリーズになりました。

さて、あまり料理も得意でないこの私が毎回料理教室のレポートを買ってている理由はただ一つ！！お手伝いという便利な立場のもと皆様の作り上げたお料理をいただけること…だっていろんなグループの作ったものを試食しなくちゃレポートできないも～ん　もぐ、もぐ
…あ、失礼しました。仕事仕事。さて今回（1月17日実施）のメニューは、

ベジタブルカレー、モモ
トマトアチャール（今回はモモに添えました）
大根のアチャール
ラッシー、無農薬コーヒー



という豪華版。今回の目玉は「モモ」。

チベット（中国）からネパールへ伝来した蒸餃子です。

チキンカレーマサラを混ぜ込んだスパイシーな風味。

日本の餃子のように半円型に包んだり、丸く作ったりします。

今回はトマトのアチャールを添えましたが、スープに入れたりとバリエーションは多彩です。

今回使用のマサラはすべて通信販売しています。

*チキンカレーマサラ（8人分）

*ベジタブルカレーマサラ（8人分）

*トマトアチャールマサラ

いずれも450円（税別）

送料が別途かかります。

ネパリ・バザー口にお問い合わせ下さい。



簡単 「モモ」の作り方

材料：たまねぎ1個、ひき肉350g

ニラ半束、にんにく3かけ

生姜すりおろし大さじ1、油大さじ1

バター大さじ2、チキンカレーマサラセット

卵1個、こしょう少々、香菜数本分

餃子の皮40枚

フライパンに油大さじ1を入れ、みじん切りにしたたまねぎを炒めます。ターメリック半量、ガーリック全量を入れ、水分が飛んだところで火を止めて冷やします。

ボウルにひき肉、みじん切りのにら、すりおろしたにんにくと生姜、チキンマサラ、チリ、卵1個、塩こさじ1、香菜みじん切り、炒めたたまねぎを入れ、かき混ぜます。あまり練り過ぎないように。

フライパンにバター大さじ2を温めて溶かし、残りのターメリックを入れ、肉類の入ったボウルに回しかけます。混ぜないで置いておきます。

混ぜた肉をひとつまみ取り、バターをまぶすように丸め、餃子の皮に乗せ、包みます。

蒸し器に入れ、表面にツヤが出るまで蒸します。

フェアトレード・ショップを訪ねて
-ミラノ(イタリア)から-
協同組合 チコ・メンデス



お店の外観

今年の5月9日から14日まで、IFATの国際フォーラムと年次総会がイタリアのミラノで開かれました。その後、フェアトレード・フェアも開かれ、盛大な催しとなりました。その機会を利用してイタリアのフェアト

レード・ショップがどのように運営されているか興味津々で、お店を訪ねてみました。

イタリアのフェアトレード・ショップは、その多くが共同組織で運営されていて、それこそ2人ぐらいの組織から、メンバーからお金を預かりして、銀行のように利子を払い、その資金をもとに力強い運営をしているところで様々です。働き方も、総てがボランティアで運営されているところから、専従者を抱えることができるようになり伸びているところと、これまた様々です。扱っている商品は、食品とハンディクラフトとが半々で、クリスマス・シーズンはハンディクラフト、そうでない時は食品でカバーしているという話も聞きました。食品の多くはフェアトレード商品ですが、オーガニックの食品、ワインも置いてあります。イタリアは、カソリック教会の影響を受けて、フェアトレードを扱う共同組織の活動

ビシュヌさんの日本訪問

魚谷早苗

通信で何度もご紹介してきたモーニング・スター・チルドレンズ・ホームは、養育者のいない子ども達やストリート・チルドレンを引きとって、家族の一員として育てている、カトマンズ郊外にあるホームです。運営しているのは、ビシュヌさんとムナさんのご夫婦。たったお二人で、現在47名もの子どもたちを育てています。大家族の食料の買いだしをし、朝と夜に全員で集まってコミュニケーションの時間を持ち、病気の子どもを病院に連れて行き、勉強を教え、その合間に、NGOの集まりなどに参加して情報を集めたり、外国からの学生をボランティアに受け入れたりして、忙しい毎日を過ごしています。

そんなビシュヌさんが、ネパール人のお友達の計らいで、日本の児童施設での研修のために来日をされました。たった3週間の滞在

でしたが、埼玉県にある養護施設に宿泊しながら、職員の案内で何ヶ所もの施設訪問もされたそうです。私達メンバー数名で訪ねましたが、施設らしくない小ぢんまりした家庭の雰囲気のある、居心地の良い「おうち」でした。子ども達を家族として育てているビシュヌさんのホームと共通するものを感じました。

日本語の分からないビシュヌさんですが、根っからの子ども好きが通じるのでしょう、子ども達はすっかりビシュヌさんになついていました。ビシュヌさんも、なれない日本で臆することなく、納豆もおいしいと食べてしまうほど生活にもなじみ、施設の職員とネパール文化の事や子どもたちの事など様々な情報を交換しながら忙しい毎日を送っていました。とても楽しんでいらっしゃいましたが、ムナさん一人で留守を守るホームを心配されると共に、日本で受けた刺激を早く家族に伝えたかったのでしょう、3週間後、飛ぶようにネパールへ帰って行かれました。

が活発ですが、また、国内の麻薬撲滅などの社会運動の影響を受けた共同組織の活動も盛んで、ワインなどはそのような背景からオーガニック・ワインが作られてフェアトレード・ショップで販売されたりもしています。

さて、イタリア国内にはどのくらいのフェアトレード・ショップがあるかといえば、約200店舗、フェアトレード商品の総販売額は、1998年度で26億円からもう少し高いところだったようです。

チコ・メンデスの設立は、約10年前。フェアトレード商品を輸入するフェアトレード組織のCTMから商品の提供を受けて、総てボランティアで始まり、今では、7つのお店を20人のスタッフと70人のボランティアで運営しています。今回訪問したポルタ・ロマーナ店は、その内の一つで、専従2名と12人のボランティアで運営されています。朝は、9時半から1時まで。2時間の休息をはさみ、午後は

● 新人紹介 矢島万知子 ●

「オッ、それいいね」と夫が言いました。昨年の夏、初めて入ったネパリ・バザーロのお店「ベルダ」のことです。デザインの美しさに惹かれて、思わず手に取った銅のやかん。遙かネパールから銅を打ち出す槌音が聞こえてくるようでした。家に持ち帰ると、やかんと一緒に「ネパリ・バザーロだより」なるものが出てきました。そこで初めて「フェアトレード」という言葉の意味を知り、そして「ボランティア募集」とあるのを見つけました。

以来、ネパールを中心とした第三世界の品
物が並ぶ「ベルダ」でお客様と接しています。

「ベルダ」が入っている「地球市民かながわプラザ（愛称あーすぷらざ）は開館して1年

3時半から7時半。日曜日がお休みになります。ここイタリアでも、このフェアトレードの世界は女性を中心。ボランティアの9割が女性だそうです。（完二 記）



創設者であり、店長のステファーノ(STEFANO MAGNONI)さん(中央)とコンピュータ・システムの説明をしてくれたルーカ(LUCA MUNARI)さん(右)と、ボランティで学生であるティジアナ(TIZIANA COLOMBO)さん(左)

数ヶ月。会議やコンサート等の催し物に参加された際に立ち寄ってくださるお客様が多く、品物を手に取り、感心した様子でご覧になっていても、慌ただしく会場に戻って行かれる方もいらっしゃいます。 けれども私は、そのような方が少しでもそこにある品物に、あるいは「フェアトレード」に関心を持って下さったのであればそれで充分ではないかと思っています。次からは「ベルダ」が目的で訪ねてくださる方が増えていけばいいのですから。 お店に入るなり、目的のものを手に取り「この前に来た時にいいなあ、と思っていたのですよ」とおっしゃって買ってくださると、とてもうれしく思います。

私達夫婦が一つのやかんと出会えたように、「オッ、いいね」という出会いがたくさん生まれますように、そしてそのことが、それらを作った人々との「出会い」につながっていくことを願いつつ、お客様をお迎えしています。

これからもよろしくお願ひいたします。

フェアトレードのお店 ベルダは楽しいイベントが満載です！！

ベルダでは、国際協力やフェアトレードについて共に考えていくために、また、協力の対象となっている国々の文化的すばらしさをご紹介するために、様々なイベントを行なっています。

フェアトレード講座

「始めよう国際協力」

~貿易ゲームと現地の声~

日時 9月19(日) 午後1時から

「横浜国際協力まつり99」

日時:10月30日(土)・31日(日)

場所:産業貿易センター1階ホール

・uフェアトレード学習会

7月より毎月

「ベルダ」では、易しい
勉強会を連続で行ない
気軽に参加出来るものを
予定しています。
みなさまの参加をお待ち
しています！

至大船

至横浜

本郷台駅

あ～すがらざ
(愛称)

地球市民かながわ
プラザ2F
フェアトレードの
お店 ベルダ

TEL:045-890-1447

FAX:045-890-1448

御も全国的にしています！
お問合せ下さい。



国際理解にお役立て下さい。通信販売カタログ

ネパリ・バザーロでは、ニュースレターの発行、フェアトレード関連の本の出版、市民の方々の国際交流、支援の理解を深める活動も行っています。また、フェアトレードの活動に広くご協力頂けるように、通信販売カタログを作成していますので、ご興味がある方はご請求下さい。

学校、教育機関へのフェアトレード商品の貸し出し、講演会、お話会など、開発教育のご協力も実施しています。お問合せ下さい。

ボランティア募集！

イベントのボランティアをはじめ、様々なボランティアを募集しています。お気軽にお問い合わせください。

ネパリ・バザーロのホームページ・・・

グループの設立からフェアトレードに関する情報紹介など分かり易く読めます。
ご覧になってご意見をメールでどうぞ！

<編集後記>



生きた情報（生の声など）を得ること
は値千金と思います。

チャンスを生かしたいですね。（昌治）



最近メンバーが増え、新風を吹き込んで
くれています。関心のある方、ぜひおい
で下さい。お待ちしています。（早苗）



ある高校でのこと。感心したのは、大人と話
せる子が多いこと。距離を感じない。そう、こ
こでは、先生はさんづけ。子どもたちは、い
いろいろバカなこともするが、自ら体験して学
ぶ。自分で考え、自分の言葉で語り行動しよう
としている。その純粋さと友情を大切にす
る姿を見て私も幸せに感じた。フェアトレ
ードの心とどこか似ていませんか？（完二）



先日、地元で「芸術祭」なる催しがあり、
自宅を開放して作品を展示している家々
を散歩がてら訪ねました。地元の再発見
でした。（洋子）

発行所：ベルダ レルネー ヨ
ネパリ・バザーロ

247-0005 神奈川県横浜市栄区桂町274-15

第2中山ビル 3階

Tel:045(891)9939 Fax:045(893)8254

<http://www.yk.rim.or.jp/~ngo>

E-mail:ngo@yk.rim.or.jp

1999年6月 発行

編集責任者：太田昌治

編集担当者：土屋完二 魚谷早苗

春山洋子

編集協力者：他スタッフ一同